

〇〇国大使館(名誉領事館)

特命全権大使(名誉領事)

〇〇〇〇閣下(殿・様)

拝啓

各国在日公館の皆様の日ごろのご活躍に敬意を表します。私たちは、「夢洲カジノを止める大阪府民の会」という万博開催予定地である大阪府の市民団体です。

さて突然、失礼とは存じますが貴国が 2025 年大阪・関西万国博覧会に参加表明されていると知り、どうしてもお伝えたいことがあり、この書簡を送らせていただきました。最後までお読み頂くことを願っております。

私たちは、大阪・関西万博の開催の中止を求めています。それは開催当事国に暮らす住民にとっての利益にならぬことであるだけでなく、参加予定国にとっても大きなリスクが生じると考えているからです。

国際博覧会条約は、「博覧会」を「公衆の教育を主たる目的とする催しであり、文明の必要とするものに応ずるために人類が利用することのできる将来の展望を示すもの」と規定しています。大阪・関西万博は、テーマこそ『いのち輝く未来社会のデザイン (Designing Future Society for Our Lives)』と謳っていますが、現状はその理念を真っ向から否定するものとなっています。

ご存じでしょうか? 2023 年 11 月 3～5 日に実施された全国世論調査では、万博開催について「不要だ」は 68.6%、「必要だ」は 28.3%との世論調査の結果が出ています(11 月 6 日(月)共同通信社)。他のマスメディアの世論調査も同じような結果が報告されています。

日本で暮らす人々の「良識」を信じてください。多くの人が中止を求めていることには理由が存在します。

まず<第1に>開催費用増大とその負担です。当初、建設費用は 1250 億円とされていました。しかし 2020 年に 1850 億円に増額。さらに現在は 2350 億円と当初の予定からほぼ倍増することになりました。これは開催住地大阪市民にとって赤ちゃんから高齢者まで 1 人あたり 1 万 9000 円の負担となります。この他、万博運営費やインフラ整備などを含めると 1 兆 71 億円もの税金・公費が費やされます。

夢洲のような軟弱地盤に重量構造物を建設するためには、地下 80m まで杭を打つ工事が必要です。東京オリンピック・パラリンピックでも当初 7000 億円の計画が 3 兆円にまで膨らみましたが、大阪万博も同じことを繰り返そうとしています。日本に暮らす人々、大阪の住民はこれを望んではいません。

<第2に>万博の招致が、大阪夢洲 IR・カジノ誘致に利用されているという現実です。万博会場となる大阪市夢洲地区は、1970 年代から巨大都市部における産業廃棄物の処理場として埋め立てが進められました。もちろん商業地として利用することは想定しておらず、環境保護関係の法整備も十分でない時代から焼却灰や浚渫土砂等で埋め立てられ、現在もヒ素、フッ素、PCB など毒物が検出されている土地です。専門家は、ここを工事で掘り返すなど絶対にしてはいけないと言っています。この土地に、日本政府や大阪府・大阪市は、IR・カジノを誘致し 2023 年度からの開業を進めようとしてきました。この地を利用するためには、上下水道を新たに引き込み、交通インフラ等整備する必要があります。

しかしこれまで刑法で禁じられてきた賭博・カジノを誘致することに、日本で生活する人々には大きな抵抗感があります。そこで日本政府や大阪府・大阪市は万博を利用し、基礎インフラを整備しようと考えたのです。狙いは、わずか 6 カ月間の開催期間しかない万博ではなく、今後 65 年にわたり日本で事業を継続するカジノ資本の利益のためなのです。そのために莫大な税金が投入され、野鳥や水棲生物など希少種が営巣し生存する環境が破壊されています。

私たちは、「ギャンブル依存による家庭崩壊など、同じ住民が不幸になることは嫌だ、ギャンブルの負け金(人の不幸)を財源に公共サービスなどありえない」との思いから、夢洲 IR・カジノ建設に反対しています。2022 年 7 月には住民投票で住民の意見を聞いてほしい、と大阪府下全市町村で 21 万筆以上の署名を集め、吉村大阪知事に提出しましたが、意見は即日却下されました。

<第3に>万博会場となる夢洲自身が抱えている問題です。汚染土が残留しているというだけでなく、現在も地盤沈下が進行し続けている地盤の上に埋立地として存在しているという事実です。国土交通省によれば今後 30 年以内にマグニチュード 9 クラスの南海トラフ巨大地震が発生するとの予測が発表されています。もし起これば、夢洲で液状化現

象が起り建物は倒壊の恐れがあります。夢洲へのわずか2つしかないルートが遮断されることは、日本政府も大阪府・大阪市も認め、防災計画を策定しようとしています。しかし夢洲に隣接する大阪市湾岸部の多くは海拔ゼロメートル以下の地域がほとんどであり、津波は大阪の中心地、梅田まで押し寄せるといわれています。

数十万人の万博観覧者が十分に避難できる計画は実現不可能であると多くの学識者も指摘してきました。こうした問題は、夢洲の地理的地質学的知見から解決不可能とまで言われています。阪神淡路大震災・東日本大震災も予測できず、被害は想定外の規模になりました。時の政府と、大阪府・大阪市の政治的利害とグローバル企業の経済的利権によって、これらの知見に対する十分な検討の場は封殺されました。これは、万博に参加する多くの国と地域の人々にとって脅威であり、命の問題といえます。「いのち輝く未来社会のデザイン」という大阪・関西万博のテーマに程遠いものといえます。

各種廃棄物、浚渫土砂で埋立した土壌問題や、地盤沈下についての課題、環境問題、莫大な費用負担、地震・津波など緊急時の防災・避難対策など全く未解決であり、このまま夢洲で万博開催をすることは認められないと考えています。

上記の内容は、松井一郎元大阪市長により万博の夢洲開催が提案されてから、多くの学者・専門家が指摘してきたことですが、一般の市民に広く知らされることはなく、強引に進められてきました。

私たちは、大阪・関西万博開予定地の夢洲について調べましたが、あまりにも危険で、ここに人々を集めていいのかと、恐怖と憤りを禁じえなくなりました。より多くの方にこれらの事実を知っていただきたいと、具体的な問題点と夢洲の航空写真を重ねたリーフレットを作成しました。同封いたしましたので、ぜひ、あわせてご覧ください。

このような問題は、2023年10月25・26日に行われた万博協会による国際企画会議で議論されたのでしょうか？

ちなみに、同じ大阪湾に建設された関西国際空港は、夢洲と違い、建設目的で埋め立てられましたが、すでに17m沈下し、2018年9月、台風21号で滑走路やターミナルが浸水、連絡橋はタンカーの衝突で通行不能となり、利用客約8,000人が孤立しました（現在は、総事業費約541億円かけて防災工事を済ませています）。

また、2つしかないアクセスの1つである夢舞大橋は風速20mの強風で通行止めに、またもう1つの夢咲トンネルは、2023年6月、大雨で冠水し通行止めになりました。万博開催期間（2025年4月13日～10月13日）は、日本では、雨季にあたる梅雨、そして猛暑とあわせ毎年各地に甚大な被害を及ぼす台風の時期と重なり、さらに危険です。

私たちは、人を不幸にするカジノは絶対に作ってほしくありません。万博建設工事で失われた生物多様性のホットスポットとなっていた広大な塩性湿地を復活させてほしいと願っております（詳しくは、同封の「大阪自然環境保全協会」のパンフレットをご覧ください）。そして、世界の目標であるSDGsの達成に協力し、真の意味での「命輝く未来」をつくっていきたいと願っています。

ぜひ世界各国のみなさまにも、大阪・関西万博への参加について今一度立ち止まりご再考していただくことを心から願います。

どうか、どうか、よろしく願い申し上げます。

敬具

追伸：最後になりましたが、現在、世界はパレスチナやウクライナなど戦禍による犠牲が増え続けております。国際社会が大阪・関西万博ではなく、こうした問題に正面から立ち向かっていただくことを願ってやみません。一日も早く停戦し、人々の命が大切にされ人権を回復できるよう、私たちも努力してまいります。

夢洲カジノを止める大阪府民の会 HP: <https://vosakaf.net/>

〒536-0008 大阪市城東区関目6丁目4-2 カサビアンカ関目103

山川義保（事務局長）

電話：090-8536-3170

メール：[stop-casino@vosakaf.net](mailto:stop-casino@vosakaf.net)